

社会資本整備総合交付金 事後評価シート
都市再生整備計画
五木西部地区

平成31年3月

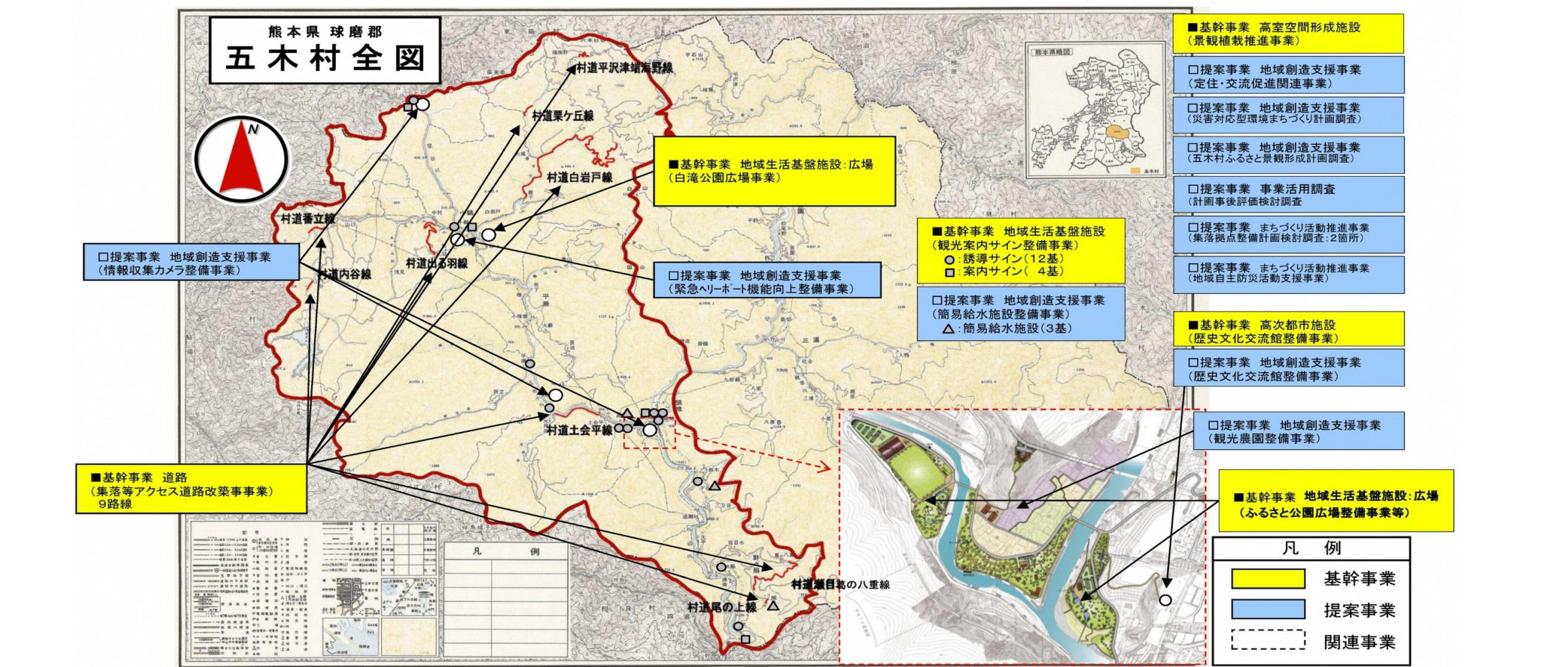
熊本県 五木村

様式2ー1 評価結果のまとめ

都道府県名	熊本県		市町村名		五木村		地区名		五木西部地区			面積	11,300ha		
交付期間	平成24年度～平成28年度		事後評価実施時期		平成30年度		交付対象事業費		2,070百万円		国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(集落等アクセス道路改築事業) 公園(五木ふるさと公園整備事業、白滝公園整備事業) 地域生活基盤施設(観光案内サイン整備事業) 高質空間形成施設(景観植栽推進事業) 高次都市施設(歴史文化交流館整備事業(交流スペース))												
		提案事業	地域創造支援事業(定住・交流促進事業、災害対応型環境まちづくり計画調査、五木村ふるさと景観形成計画調査、情報収集カメラ整備事業、緊急ヘリポート機能向上整備事業、歴史文化交流館整備事業(資料館スペース)、簡易給水施設整備事業、) 事業活用調査(計画事後評価検討調査) まちづくり活動推進事業(集落拠点整備計画検討調査、地域防災活動支援事業)												
		事業名							削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし					-			-				
		提案事業	水没予定地トータルデザインコーディネート事業					当該整備に関連したソフト施策については、県の補助制度にて検討することとし、ハード整備との連携方策については、庁内にて検討することとしたため計画より除外			影響なし				
	新たに追加した事業	基幹事業	なし					-			-				
		提案事業	なし					-			-				
交付期間の変更	当初変更	平成24年度～平成28年度		-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	居住満足度	%	55.8	H23	66.0	H29	-	64.1 (推計値) H28は62.7	△	あり	○	H23年と比較するとH28では6.9%、H29では8.3%(推計値)ほど居住満足度が向上する見込みである。ただし、熊本地震の発生がH28年4月であり、H28年9月に実施されていることから、H28の調査結果に関しては、少なからず熊本地震による居住満足度の低下が考えられる。	H31	
											なし				
	指標2	三次救急医療対応の病院までの到達時間	分	53	H23	32	H29	-	32	○	あり		小鶴地区の小学校跡地をヘリポートとして利用できるように、防塵用の散水機材および離発着用の吹き流しを整備し、医療施設まで到達時間を21分ほど短縮した。	-	
											なし				
	指標3	観光入込客数	千人	158	H23	200	H29	-	174	△	あり	○	H28年4月に熊本地震が発生したことから、H27年まで176千人であった観光客数が一気に減少した。ただし、H29年にはヒストリアテラス等の周辺施設の整備も整い、174千人にまで回復していることから、今後も回復の兆しが伺えると考えられる。	H31	
											なし				
	3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
		その他の数値指標1	まちづくり団体の登録数	団体/年	4	H25			-	5 (H30)			H30時点でまちづくり団体の登録が5件あり、住民のまちづくりへの関わりが積極的になっており、今後も登録数は増えると考えられる。	-	
その他の数値指標2		本事業の施設整備による利用者数	人/年	12,000	H26			-	30,342 (H29)						
その他の数値指標3		体験型観光参加者数	人/年	10,206	H25			-	13,201 (H30)						
4)定性的な効果発現状況		・H29に整備されたキナイカフェが新たな子育て世代のコミュニティスペースとして利用されており、特に図書コーナーやキッズスペースに子供連れの方が多い。 ・五木ふるさと公園整備事業で整備した公園がサッカー場として活用されており、球磨郡部からも子供たちが来ている。サッカー大会が開催されたり、専門の指導員を招いての練習等も行われており、にぎわいを感じられる。													
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた				-					
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				-					
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-					
	住民参加プロセス	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた				-					
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				-					
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-					
持続的なまちづくり体制の構築	ふるさと振興課を中心に、庁内にて随時まちづくり関連事業について検討をしている。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				-						
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●						
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				引き続き、ふるさと振興課を中心とした検討を継続して実施する。						

様式2-2 地区の概要

五木西部地区 まちづくり交付金の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
安心して生き活きと住み続けることができる誇れるふるさと五木の里づくり		居住満足度	単位：%	55.8	H23	66.0	H29	64.1	H29(推計値)
目標1:自然環境と共生した安全安心な生活基盤の整備を充実させ、コミュニティの維持を図る。		三次救急医療対応の病院までの到達時間	単位：分	53	H23	32	H29	32	H29
目標2:災害や緊急時へのハード、ソフトの双方の対策により災害等に強い安全で自立的なまちづくりを推進する。		観光入込客数	単位：千人	158	H23	200	H29	174	H29
目標3:水没予定地活用の拠点整備、および地域資源を活かした観光客誘致の仕掛け・仕組みづくりにより、交流の促進を図る。									



まちの課題の変化	・集落アクセス道路については、9路線における改良工事が実施されており、生活環境の改善は少しずつではあるが改善されている。 ・防災対策の強化については、H28年に熊本地震も発生したことから、緊急時におけるヘリポートの整備や災害対応型環境まちづくり計画調査の実施、地域自主防災活動支援事業等の推進に向けた取り組みや情報収集カメラの整備等を実施しており、ハード・ソフト両面からの生活不安の解消に寄与していると考える。 ・熊本地震の発生により予め予定していた目標の観光客数には届かなかったが、H29年以降の観光施設の整備により観光客数のV字回復が見られている。ただし、まだ目標人数には到達していないことから、PRの強化やイベントの実施等によるさらなる観光客の呼び込み策を検討すべきである。 ・五木らしい施設の整備については、H30年にコテージの建設を進めており、川辺川の流れを十分に楽しめる配置となっている。またバンジージャンプやカヤック等の水辺を存分に活かしたレジャーもっており、知名度の向上に寄与していると考ええる。また、現在五木村農林課にて実施されている五木村のブランド“五木づし”のPRの強化によるさらなる販路拡大が必要である。 ・五木村ふるさと景観形成計画調査等の実施により、地区全体での景観形成のあり方を調査・計画している。 ・景観植栽により、幹線道路沿線の景観の向上を図った。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	・観光客数の増加をさらに促進する為、新たに整備したヒストリアテラスやキナйкаフェ、H30に完成予定のコテージ等を中心とした、観光資源を十分に活用し、町の魅力アップを図る。また、これら施設の利用に加えて周辺にて実施されているレジャー施設の利用客の増加や、五木村へのリピーターの増加を促進するため、各種PRイベントや観光情報の発信、観光資源の発掘・活用等のソフト事業を進めていく。 ・五木村の特産品である、「やまめ」や「ねぶ」、「椎茸」等の五木村ブランドである“五木づし”の販路拡大のため、PR活動の強化やイベントの実施等を進めていく。 ・まちづくり活動推進事業で実施した専門家等の派遣による地域住民のまちづくりに対する意識の醸成をさらに促進するため、地域の活動団体の結成や住民同士の活動の場の提供等を進めていく。

社会資本整備総合交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、社会資本整備総合交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 社会資本整備総合交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 社会資本整備総合交付金評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標「観光入込客数」の数値目標について、250千人を目指す。	数値目標を8割減に下方修正。	平成28年4月発生の熊本地震の影響により、観光入込客数の落ち込みもあり、目標数値を下方修正した。
D. その他()					

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	集落等アクセス道路改築事業 (村道内谷線)	34	L=980m	101	L=2,874m	改良延長の詳細な見直しに伴う事業費の増加。	居住満足度や医療施設までのアクセス時間の短縮に関するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
道路	集落等アクセス道路改築事業 (村道番立線)	5	L=300m	4	L=236m	改良延長の詳細な見直しに伴う事業費の増加。	居住満足度や医療施設までのアクセス時間の短縮に関するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
道路	集落等アクセス道路改築事業 (村道出る羽線)	221	L=2,440m	120	L=1,804m	改良延長の詳細な見直しに伴う事業費の増加。	居住満足度や医療施設までのアクセス時間の短縮に関するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
道路	集落等アクセス道路改築事業 (村道白岩戸線)	144	L=4,790m	56	L=145m	改良延長の詳細な見直しに伴う事業費の増加。	居住満足度や医療施設までのアクセス時間の短縮に関するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
道路	集落等アクセス道路改築事業 (村道栗ヶ丘線)	5	L=100m	6	L=113m	改良延長の詳細な見直しに伴う事業費の増加。	居住満足度や医療施設までのアクセス時間の短縮に関するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
道路	集落等アクセス道路改築事業 (村道平沢津端海野線)	22	L=1,000m	6	L=78m	改良延長の詳細な見直しに伴う事業費の増加。	居住満足度や医療施設までのアクセス時間の短縮に関するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
道路	集落等アクセス道路改築事業 (村道瀬目葛の八重線)	121	L=2,330m	25	L=161m	改良延長の詳細な見直しに伴う事業費の増加。	居住満足度や医療施設までのアクセス時間の短縮に関するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
道路	集落等アクセス道路改築事業 (村道尾の上線)	5	L=100m	2	L=57m	改良延長の詳細な見直しに伴う事業費の増加。	居住満足度や医療施設までのアクセス時間の短縮に関するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
道路	集落等アクセス道路改築事業 (村道土会平線)	33	L=1,320m	40	L=1,480m	改良延長の詳細な見直しに伴う事業費の増加。	居住満足度や医療施設までのアクセス時間の短縮に関するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	観光案内サイン整備事業	53	19基	19	19基	事業費の詳細な見直しにより削減。	居住満足度や観光入り込み客数に関するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
	五木ふるさと公園整備事業	1,642	A=8.8ha	883	A=6.0ha	整備エリアの縮小に伴う事業費の削減。	居住満足度や観光入り込み客数に関するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
	白滝公園整備事業	236	A=0.25ha	138	A=0.25ha	事業費の詳細な見直しにより削減。	居住満足度や観光入り込み客数に関するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
高質空間形成施設	景観植栽推進事業	50	-	39	-	現地確認による植栽箇所の詳細な見直しに伴う事業費の削減。	居住満足度や観光入り込み客数に関するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
高次都市施設	歴史文化交流館整備事業(交流スペース)	148	延床250m ²	100	延床187m ²	整備エリアの縮小による事業費の削減。	観光入り込み客数に関係するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	定住・交流促進事業	75	－	17	－	事業計画の詳細な見直しによる事業費の削減。	居住満足度に関係するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
	災害対応型環境まちづくり計画調査	910	－	2	－	事業計画の詳細な見直しによる事業費の削減。	居住満足度や医療施設までのアクセス時間の短縮に関係するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
	五木村ふるさと景観形成計画調査	10	－	5	－	事業計画の詳細な見直しによる事業費の削減。	居住満足度や観光入り込み客数に関係するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
	情報収集カメラ整備事業	50	－	55	－	現地状況による事業費の増加。	居住満足度に関係するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
	緊急ヘリポート機能向上整備事業	3	1箇所	1	1箇所	現地確認による事業費の削減。	居住満足度や医療施設までのアクセス時間の短縮に関係するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
	歴史文化交流館整備事業 (資料館スペース)	148	延床250m ²	323	延床602m ²	事業計画の詳細な見直しによる事業費及び面積の増加。	居住満足度や観光入り込み客数に関係するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
	簡易給水施設整備事業	176	5地区	91	3地区	現地確認による整備必要箇所数の減少により事業費の削減。	居住満足度に関係するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
事業活用調査	計画事後評価検討調査	5	－	5	－	変更なし	影響なし	●	
まちづくり 活動推進事業	集落拠点整備計画検討調査	15	3地区	9	2地区	調査必要地区数の減少による事業費の削減。	居住満足度に関係するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	
	地域防災活動支援事業	10	5地区	11	5地区	現地状況による事業費の増加。	居住満足度に関係するが、大きくは影響しないため数値目標は据え置く。	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
		単位			基準 年度		基準 年度		目標 年度						あり	なし
指標1	居住満足度	%	五木村「住み良い」むらづくりのためのアンケートにおける居住満足度のうち、居住環境に対して良好であるとする方の割合を算出。	-	-	55.8	H23	66.0	H29	モニタリング	-	-	モニタリング	-	●	
										事後評価	確定見込み	●	64.1	事後評価		
指標2	三次救急医療対応の病院までの到達時間	分	ヘリポートの整備対象箇所である小鶴地区から、三次救急医療対応の病院までの到達時間(要請から搬送完了までの時間)	-	-	53	H23	32	H29	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定見込み	●	32	事後評価		
指標3	観光入込客数	千人	村内の宿泊・日帰客数	-	-	158	H23	200	H29	モニタリング	-	-	モニタリング	-	●	
										事後評価	確定見込み	●	174	事後評価		
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	熊本地震の影響で一時満足度が低下しているが、今後のハード整備等による観光客の増加や地域の交流施設の増加などによる居住満足度の向上が考えられるため△とした。	見込みの値については、あくまでもH23～H29の傾向を元に伸び率を同じにして推計したため、今後のハード整備による満足度の傾向は不明である。
指標2	ヘリポートの整備完了に伴う到達時間の短縮が可能となったため、○とした。	
指標3	H28年の熊本地震の影響から、一時観光客の減少が見られたため、目標値を下回っているが、H29年の観光入り込み客数はH27と同程度までV字回復しており、H30年にはコテージの完成も控えていることから、今後さらなる観光客の増加が期待できるため△とした。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
					基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	まちづくり団体への登録 数	団体/年	役場へ届け出た団体登録数を確認した。	－	－	4	H25	モニタリング	－	－	五木村へ住んでいることへの誇りがまちづくり活動への積極的な参加へ繋がり、居住満足度の向上に寄与するため。	指標1を補完して、地域住民の居住満足度の向上を説明する。
								事後評価	確定 見込み	●		
その他の 数値指標2	本事業の施設整備による 利用者数	人/年	本事業にて整備した観光施設の利用者数を計測した。	－	－	12,000	H26	モニタリング	－	－	H28年の熊本地震の影響と、H29年に完成した観光施設の影響が直接的な観光入り込み客数の増加に寄与するため。	指標3を補完して、観光入り込み客数の増加を説明する。
								事後評価	確定 見込み	●		
その他の 数値指標3	体験型観光参加者数	人/年	体験型のレジャーへの参加者を計測した。	－	－	10,206	H25	モニタリング	－	－	H28年の熊本地震の影響と、H29年に完成した観光施設の影響が直接的な観光入り込み客数の増加に寄与するため。	指標3を補完して、観光入り込み客数の増加を説明する。
								事後評価	確定 見込み	●		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・H29に整備されたキナイカフェが新たな子育て世代のコミュニティスペースとして利用されており、特に図書コーナーやキッズスペースに子供連れの方が多い。
・五木ふるさと公園整備事業で整備した公園がサッカー場として活用されており、球磨郡部からも子供たちが来ている。サッカー大会が開催されたり、専門の指導員を招いての練習等も行われており、にぎわいを感じられる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
ふるさと振興課を中心に、庁内にて随時まちづくり関連事業について検討をしている。	予定どおり実施した	● ふるさと振興課から各課に対して会議への出席依頼や趣旨説明を実施	なし	引き続き、ふるさと振興課を中心とした検討を継続して実施する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
該当なし			

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3	
指 標 名		居住満足度		三次救急医療対応の 病院までの到達時間		観光入込客数		まちづくり団体の登録数		本事業の施設整備による 利用者数		体験型観光参加者数	
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	道路 集落等アクセス道路改築事業 村道内谷線	○	集落等アクセス道路の	○	学校跡地のグラウンド	—	歴史文化交流館や公	—	五木村の歴史を知ること	—	交流館の整備に伴い、	—	交流館等の観光情報提
	道路 集落等アクセス道路改築事業 村道番立線	○	改築や地域の生活基	○	を緊急ヘリポートに整	—	園の整備等を行うこと	—	とができる交流館の整	—	子育て世代の交流や憩	—	供施設における体験型
	道路 集落等アクセス道路改築事業 村道出る羽線	○	盤となる公園等の整	○	備したことで、小鶴周辺	—	で、イベントの開催数が	—	備やまちづくり活動を	—	いの場が増加し、利用	—	観光への誘導が参加者
	道路 集落等アクセス道路改築事業 村道白岩戸線	○	備、簡易給水施設の整	○	地区から初期救急医療	—	増え、さらに体験型観	—	推進するための集落拠	—	者の増加に繋がったと	—	数の増加に繋がってい
	道路 集落等アクセス道路改築事業 村道葉ヶ丘線	○	備等による直接的な居	○	機関のある人吉市まで	—	光への参加者が増加し	—	点の整備、地域防災活	—	考える。	—	ると考える。
	道路 集落等アクセス道路改築事業 村道平沢津端海野線	○	住環境の改善が居住	○	の輸送時間が大幅に	—	ている。	—	動の支援等、地域のコ	—	また、観光施設としての	—	
	道路 集落等アクセス道路改築事業 村道瀬戸葛の八重線	○	満足度の改善につな	○	短縮された。	—		—	ミュニティ強化のための	—	機能もあわせ持つこと	—	
	道路 集落等アクセス道路改築事業 村道尾の上線	○	がっていると考えられ	○	また、集落等へのアク	—		—	事業により、まちへの	—	から、地域の交流だけ	—	
	道路 集落等アクセス道路改築事業 村道土会平線	○	る。	○	セス道路が改築された	—		—	愛着が生まれ、様々な	—	でなく、観光客等の増	—	
	地域生活基盤施設 観光案内サイン整備事業	○	中でも特に、災害に強	○	ことで、さらなる到達時	—		—	まちづくり活動団体の	—	加にも繋がっている。	—	
	地域生活基盤施設 五木ふるさと公園整備事業	◎	いまちづくりを進めるた	—	間の短縮に寄与すると	○		—	登録に繋がっていると	—		—	
	地域生活基盤施設 白滝公園整備事業	◎	めの計画調査や集落	—	考えられる。	○		—	考える。	—		—	
	高質空間形成施設 景観植栽推進事業	○	拠点の整備、地域防災	—		○		—		—		—	
	高次都市施設 歴史文化交流館整備事業(交流スペース)	◎	活動への支援等が満	—		○		—		—	◎		○
提案事業	地域創造支援事業 定住・交流促進事業	○	足度の向上に寄与して	—		—		—		—		—	
	地域創造支援事業 災害対応型環境まちづくり計画調査	◎	いると考えられる。	—		—		—		—		—	
	地域創造支援事業 五木村ふるさと景観形成計画調査	○		—		○		—		—		—	
	地域創造支援事業 情報収集カメラ整備事業	○		—		—		—		—		—	
	地域創造支援事業 緊急ヘリポート機能向上整備事業	○		◎		—		—		—		—	
	地域創造支援事業 歴史文化交流館整備事業(資料館スペース)	○		—		○		—		◎		○	
	地域創造支援事業 簡易給水施設整備事業	◎		—		—		—		—		—	
	事業活用調査 計画事後評価検討調査	—		—		—		—		—		—	
	まちづくり活動推進事業 集落拠点整備計画検討調査	◎		—		—		○		—		—	
	まちづくり活動推進事業 地域防災活動支援事業	◎		—		—		○		—		—	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もととも関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	居住環境の改善に資する種々の取り組みを継続して実施し、満足度の向上に努める。 まちへの愛着の醸成等にもつながることから、まちづくり団体への登録数の増加も含め、必要に応じて事業を行う。 その際、アンケート等による住民意見の収集を行い、実情に沿った事業を行うように努める。	緊急輸送道路の点検・整備を今後も継続して実施し、緊急時の速達性を維持・向上させる。	整備した施設を最大限活用したイベントの開催や体験型観光への参加を促すような情報発信を積極的に行うことによる、さらなる参加者の増加を図る。	さらなる地域のコミュニティ強化のため、整備した施設のさらなる活用、交流の場の拡大に資するイベントの開催等を積極的に行い、まちづくり活動の活性化に努める。	施設のさらなる活用による地域の交流の促進と、交流人口の増加を促すよう努める。	引き続き、観光交流施設を活用した体験型観光の情報提供を行うとともに、SNS等の情報提供媒体を活用することでさらなる交流人口の増加に繋げる。 また、他の体験型観光の種類についても検討を行う。
-------	--	---	--	--	--	---

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別																			
指 標 名																			
種別	事業名・箇所名	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類
基幹事業																			
提案事業																			

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
該当なし			

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
■人口流出に歯止めをかけ、集落機能の維持を図るために、集落アクセスの改善や集落基盤の充実などの生活環境の改善が必要である。	・集落アクセス道路については、9路線における改良工事が実施されており、生活環境の改善は少しずつではあるが改善されている。	・落石への対策、未整備道路の整備等	・特になし
■近年の異常気象による大規模災害の危険性といった新たな脅威も顕在化してきていることから、安全安心して住み続けるためには、ハード・ソフト両面からの防災対策の推進による生活不安の解消が必要である。	・防災対策の強化については、H28年に熊本地震も発生したことから、緊急時におけるヘリポートの整備や災害対応型環境まちづくり計画調査の実施、地域自主防災活動支援事業等の推進に向けた取り組みや情報収集カメラの整備等を実施しており、ハード・ソフト両面からの生活不安の解消に寄与していると考ええる。	・防災組織の活動促進等	
■観光客の増加等、村外との交流促進や新たな活力を呼び込むために、村の中心地である頭地周辺に広がる水没予定地等を活用した交流拠点の形成が必要である。	・熊本地震の発生により予め予定していた目標の観光客数には届かなかったが、H29年以降の観光施設の整備により観光客数のV字回復が見られている。	・PRの強化やイベントの実施等によるさらなる観光客の呼び込み策の検討	
■日本一の清流「川辺川」等の豊かな自然環境や子守唄等による知名度を活かした五木らしい施設を整備するとともに、特産品の開発等を推進し、観光振興を促す仕掛け・仕組みづくりが必要である。	・五木らしい施設の整備については、H30年にコテージの建設を進めており、川辺川の流れを十分に楽しめる配置となっている。またバンジージャンプやカヤック等の水辺を存分に活かしたレジャーも行っており、知名度の向上に寄与していると考ええる。また、現在五木村農林課にて五木村のブランド”五木づくし”のPRを実施している。	・五木村のブランド”五木づくし”を通じた生産者と消費者双方のコミュニケーションの強化、それによるさらなる販路拡大	
■五木村の魅力を高めるため、村の中心地である頭地周辺や町の幹線道路から見た五木らしい原風景を取り戻す景観形成が必要である。	・五木村ふるさと景観形成計画調査等の実施により、地区全体での景観形成のあり方を調査・計画している ・景観植栽により、幹線道路の景観の向上を図った	・調査結果を活かし、町の骨格軸等の道路から見た景観形成策の検討	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	・集落アクセス道路の点検・維持管理の継続	・地域の目を活用した通報制度の実施	・幹線道路を中心とした住民主導の道路の維持管理に対する支援
	・ソフト面での防災対策の強化	・地域における防災意識の強化	・ヘリポートを活用した防災訓練の実施

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・観光客を呼び込むための施策の検討	・全国でのPRやSNSによる情報提供の強化	・PRイベントの開催とPR動画やCM等の映像媒体の作成 ・WEBマーケティングを活用した五木村ブランドの構築及び集客力の向上
	・五木村のブランド”五木づくし”を通じた生産者と消費者双方のコミュニケーションの強化、それによるさらなる販路拡大	・全国でのPRイベント、SNSによる情報提供の実施	・PRイベントの開催とパンフレット等の作成、配布 ・WEBマーケティングを活用した五木村ブランドの構築及び集客力の向上
	・調査結果を活かし、町の骨格軸等の道路から見た景観形成策の検討	・地区全体における景観のあり方を検討	・道路軸を活かした景観計画の策定及び景観重点施策を中心とした、景観向上のための施策の実施
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・特になし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標			単位	従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
				年度		年度							予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	居住満足度	%	55.8	H23	66.0	H29	確定見込み	●	64.1 (推計値) H28は62.7	△	あり なし	●	→	H31	アンケートの実施	
指標2	三次救急医療対応の病院までの到達時間	分	53	H23	32	H29	確定見込み	●	32	○	あり なし		→			
指標3	観光入込客数	千人	158	H23	200	H29	確定見込み	●	174	△	あり なし	●	→	H31	観光統計から集計	
指標4							確定見込み				あり なし		→			
指標5							確定見込み				あり なし		→			

その他の数値指標1	まちづくり団体の登録数	団体/年	4	H25		確定見込み	●	5 (H30)			→			
その他の数値指標2	本事業の施設整備による利用者数	人/年	12,000	H26		確定見込み	●	30,342 (H29)			→			
その他の数値指標3	体験型観光参加者数	人/年	10,206	H25		確定見込み	●	13,201 (H30)			→			
その他の数値指標4						確定見込み					→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標・成果の達成	うまくいった点	集落アクセス道路やヘリポート整備により、住民満足度が向上したと考えられる。 ごきげんパークやヒストリアテラス等の整備により、観光入込客数が増加したと考えられる。	次期に計画はなし。 既存施設のストックを活かし、これと連携したソフト施策を充実させることにより、地域全体の振興につなげていく。
	うまくいかなかった点	ハード整備と連携したソフト施策の更なる充実により、整備効果を更に高めることが必要と考えられる。	
数値目標と目標・事業との整合性等	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	
住民参加・情報公開	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	
PDCAによる事業・評価の進め方	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	
その他	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	

添付様式6－参考記述 今後、社会資本整備総合交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

該当なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	村のホームページに掲載	-	-	担当課への持参、郵送、FAX、電子メール	五木村役場 ふるさと振興課
広報掲載・回覧・個別配布	広報いつきへの掲載	-	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	ふるさと振興課での閲覧	-	-		

住民の意見	特になし
-------	------

(6)社会資本整備総合交付金評価委員会の審議

添付様式8 社会資本整備総合交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	柴田 祐(熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学科 教授)	第1回 平成31年3月6日	五木村役場 ふるさと振興課	評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	総務課長 下内 泰臣 ふるさと振興課長 森田 広信 保健福祉課長 川辺 尚也				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って事後評価が適切に実施されたことが確認された。
	成果の評価	熊本地震の影響もあり、観光入り込み客数については減少したが、体験型観光者数が近年増加していることから、今後の観光入り込み客数の増加が見込めるため、ソフト施策と組み合わせての効果発現を期待するとの意見があった。
	実施過程の評価	住民の自主的な活動が多数あるが、高齢化が進み活動自体が困難になってきているとの意見があった。
	効果発現要因の整理	「本事業の施設整備による利用者数」の総合所見について、ヒストリアテラスには子供連れは多いが、高齢者の利用は少ないため、高齢者の交流という文言は削除する。
	事後評価原案の公表の妥当性	HP等での事後評価シートの公表を行うこととした。
	その他	特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であることが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	五木村での次期計画の予定がないため、今後の課題についてはまちづくり全体に対する課題を記載することとした。
	フォローアップ	来年度西部地区での事後評価検討を実施することから、アンケート等のフォローアップについては、合同にて実施する予定である。
	その他	五木村ブランドの販路拡大のための施策としてのPRについては、PRの本来の意味(社会との双方向コミュニケーション)を踏まえて、村内外の双方向のコミュニケーションにより、効果的に五木村ブランドを構築していくといった記載内容とする。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であることが確認された。
その他		特になし。

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。